

新型コロナウイルス感染症の拡大による 水道事業経営への影響について ⑰

令和3年7月検針分（主に5・6月使用分）

用途別の影響

令和3年7月分の検針データを前年（コロナ後）及び前々年（コロナ前）と比較すると、主に家庭用となる20mm以下の口径は、前年度との比較では、水量は約15,000m³、1%の減、料金は約5,440万円、83%の増となりました。また前々年度との比較では、水量は約41,000m³、3%の増、料金は約390万円、3%の増となりました。

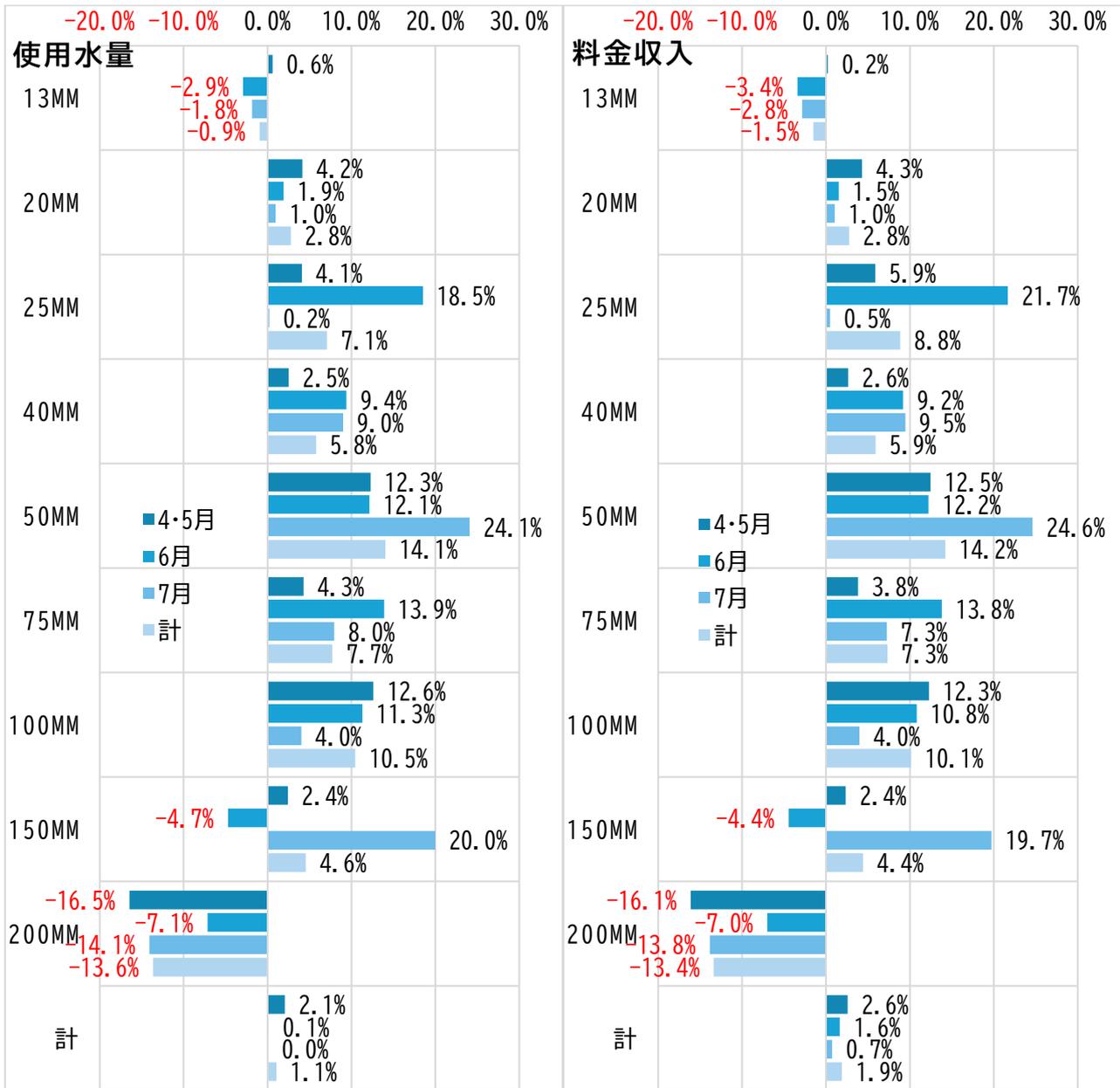
主に業務用となる25mm以上の口径は、前年度との比較では、水量は約16,000m³、8%の増、料金は約1,020万円、28%の増となりました。また前々年度との比較では、水量は約19,000m³、8%の減、料金は約450万円、9%の減となりました。

合計では、前年度との比較では水量約500m³、0.03%の増、料金約6,460万円、64%の増となり、前々年度との比較では水量約22,000m³、2%の増となりましたが、料金約60万円、0.3%の減となりました。料金収入の大きな増加は、昨年度の減額措置の影響によるものです。

検針年	区分	7月検針分（5・6月使用分）		
		20mm以下	25mm以上	合計
R1 (H31)	水量 (m ³)	1,176,159	223,904	1,400,063
	金額(税抜き:円)	116,040,635	50,610,700	166,651,335
	供給単価(円)	98.66	226.04	119.03
R2	水量 (m ³)	1,232,308	189,211	1,421,519
	金額(税抜き:円)	65,509,650	35,941,300	101,450,950
	供給単価(円)	53.16	189.95	71.37
R3	水量 (m ³)	1,217,028	204,985	1,422,013
	金額(税抜き:円)	119,953,405	46,107,090	166,060,495
	供給単価(円)	98.56	224.93	116.78
対R2 増減 (コロナ後 との比較)	水量 (m ³)	-15,280	15,774	494
	増減率	-1.24%	8.34%	0.03%
	金額(税抜き:円)	54,443,755	10,165,790	64,609,545
	増減率	83.11%	28.28%	63.69%
	供給単価(円)	45.40	34.98	45.41
	増減率	85.41%	18.41%	63.63%
対R1 増減 (コロナ前 との比較)	水量 (m ³)	40,869	-18,919	21,950
	増減率	3.47%	-8.45%	1.57%
	金額(税抜き:円)	3,912,770	-4,503,610	-590,840
	増減率	3.37%	-8.90%	-0.35%
	供給単価(円)	-0.10	-1.11	-2.25
	増減率	-0.10%	-0.49%	-1.89%
			R2金額増減のうち減額措置分	△ 63,402,070

口径別の対前年変動率

口径別の対前年変動率を見ると、使用水量、料金ともに、13mmと200mm以外の口径で増となりました。



※料金収入は、減額措置の影響を差し引いています。

考察

昨年7月検針分は、新型コロナウイルス感染症の拡大、緊急事態宣言の影響による家庭での需要増、業務用での需要減が続いていたことに加え、料金の減額措置を実施しました。今年7月検針分では、主に家庭用の20mm以下は、コロナの影響で増えた前年度を下回り、主に業務用の25mm以上は、コロナの影響で減少した前年度を大きく上回っています。家庭から業務用へと需要が移っている状況が続きますが、コロナ前の前々年度との比較では、20mm以下の増加と25mm以下の減少が続いていることから、コロナ前の状態に戻ってはいないものの徐々に近づきつつある状態と推測できます。

また、料金収入の3分の1を占める25mm以上合計で、使用水量の伸びが続いていることは、安定的な経営につながるものですが、150mmは大きく増えたものの、200mmでは、大きな減少が続いており、一部の製造業で生産活動が低調であることが推測できます。引き続き25mm以上の利用動向には注意を払う必要があります。